

(19) 世界知的所有権機関  
国際事務局



552346

(43) 国際公開日  
2004 年 10 月 28 日 (28.10.2004)

PCT

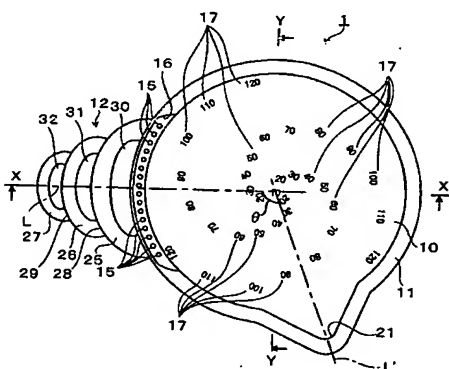
(10) 国際公開番号  
WO 2004/091336 A1

- (51) 国際特許分類<sup>7</sup>: A45D 19/02
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2004/005203
- (22) 国際出願日: 2004 年 4 月 12 日 (12.04.2004)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:  
特願2003-107643 2003 年 4 月 11 日 (11.04.2003) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社パークウェイ (PARK WAY CO. LTD.) [JP/JP]; 〒1540002 東京都世田谷区下馬四丁目 2 1 番 9 号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者; および
- (73) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 波握 英珠 (PARK, Young-soo) [JP/JP]; 〒1540002 東京都世田谷区下馬四丁目 2 1 番 9 号 株式会社パークウェイ内 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 萩原 康司, 外(HAGIWARA, Yasushi et al.); 〒1620065 東京都新宿区住吉町 1-1-2 新宿曙橋ビル はづき国際特許事務所 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IT, LU, MC,

[続葉有]

(54) Title: DYE CUP

(54) 発明の名称: 染料カップ



(57) Abstract: A dye cup has a cup portion (11) in which dye is received and of which upper face is opened. Comb teeth (15) are arranged on the upper end surface of or the inner surface of the cup portion (11). Using the comb teeth (15) enables extra dye to be scraped off from a brush (45) etc. and a brush portion (46) to be shaped, facilitating work. Further, using the comb teeth (15) enables hair and dust adhered to the brush (45) etc. to be removed without dirtying hands.

(57) 要約:

染料を入れるための上面が開口したカップ部 11 を有し、カップ部 11 の上端面もしくはカップ部 11 の内面に、櫛歯 15 が並べて設けられている。櫛歯 15 を利用することにより、ブラシ 45 等から余計な染料を削ぎ落としたりブラシ部 46 などの形を整え作業が容易にでき、また、ブラシ 45 等に付着した毛髪やほこりなどを手を汚さずに除去できる。

WO 2004/091336 A1



NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。

添付公開書類:

— 国際調査報告書

明細書  
染料カップ

技術分野

- 5      本発明は、本発明は、ヘアカラーカップの如き染料を入れるための染料カップに関する。

発明の背景

- 10      理髪店や美容院などにおいては、ヘアカラー（毛髪を染めるための染毛剤）を入れたカップを椅子に座った顧客の頭部近くに置き、理容師や美容師がブラシ等でヘアカラーをカップから掬い取って顧客の毛髪に塗布している。ヘアカラーカップに関し、例えば特開 2000-316627 号が公知である。

- 15      塗布する際には、ブラシ等の先端のブラシ部をカップ内のヘアカラー中に一旦浸し、それからブラシ部をカップ上端部などに押し付けて余計なヘアカラーを削ぎ落とし、ブラシ部の形を整えてから、顧客の毛髪に塗布するようにしている。従来のヘアカラーカップでは、このようにブラシ部から余計なヘアカラーを削ぎ落としたりブラシ部の形を整える際に、誤ってカップの外にヘアカラーを垂らしたり、あるいは、ブラシ部  
20      から削ぎ落とされたヘアカラーがカップ上端部から外側に垂れるといった問題を生じやすい。

- 25      また、ブラシ等で顧客の毛髪にヘアカラーを塗布していると、毛髪（抜毛等）やほこりなどがブラシ等に付着することがあるが、その場合、ブラシ等にはみ出て付着した毛髪やほこりなどにもヘアカラーが付いてしまうので、そのまま塗布した場合、毛髪やほこりなどに付着したヘアカラーが、毛髪、頭皮以外の箇所にも付着し、顧客の顔や、肌、衣服を汚してしまうといった問題を生ずる。

このような問題を回避するために、理容師や美容師は、塗布する際にブラシ等に付着した毛髪やほこりなどをいちいち手で取り除いているが、そうすると、理容師や美容師の手にヘアカラーが付着してしまう。また、そのようなヘアカラーが付着した手で触れることにより、顧客の顔や肌、  
5 衣服、あるいはその周辺を汚してしまうといった問題を生ずる。

#### 発明の開示

従って本発明の目的は、ヘアカラーカップの如き染料を入れるための染料カップにおいて、ブラシ等から余計な染料を削ぎ落としたりブラシ  
10 部などの形を整える作業が容易にでき、また、ブラシ等に付着した毛髪やほこりなどを手を汚さずに除去できるようにすることにある。

この目的を達成するために、本発明の染料カップは、染料を入れるための上面が開口したカップ部を有し、カップ部の上端面もしくはカップ部の内面に、櫛歯が並べて設けられている。前記染料は、例えばヘア  
15 ラーである。カップ部の内面上方に凹部を形成し、この凹部に複数の櫛歯を並べて設けても良い。また、カップ部の外側にカップ部を保持するためのハンドル部を設け、該ハンドル部の基部近傍に前記櫛歯を設けても良い。

本発明によれば、ブラシ等から余計な染料を削ぎ落としたりブラシ部  
20 などの形を整え作業が容易にでき、また、ブラシ等に付着した毛髪やほこりなどを手を汚さずに除去できる。

#### 図面の簡単な説明

図1は、本発明の実施の形態にかかるヘアカラーカップの平面図である。  
25

図2は、本発明の実施の形態にかかるヘアカラーカップの側面図である。

図 3 は、図 1 における X－X 線断面矢視図である。

図 4 は、図 1 における Y－Y 線断面矢視図である。

図 5 は、本発明の実施の形態にかかるヘアカラーカップの使用状態の説明図である。

5 図 6 は、本発明の実施の形態にかかるヘアカラーカップの使用状態の説明図である。

図 7 は、カップ部内面に直接櫛歯を設けた本発明の他の実施の形態にかかるヘアカラーカップの縦断面図である。

10 図 8 は、櫛歯を縦方向に並べて配置した本発明の他の実施の形態にかかるヘアカラーカップの縦断面図である。

図 9 は、カップ部内面の底部に櫛歯を配置した本発明の他の実施の形態にかかるヘアカラーカップの縦断面図である。

図 10 は、カップ部の上端面に櫛歯を配置した本発明の他の実施の形態にかかるヘアカラーカップの縦断面図である。

15

発明を実施するための最良の形態

以下、本発明の好ましい実施の形態を、図面を参照にして説明する。なお、この実施の形態では、理髪店や美容院などにおいて、毛髪を染めるためのヘアカラーを入れるヘアカラーカップについて説明する。

20 図 1～4 に示すように、この実施の形態にかかるヘアカラーカップ 1 は、染料としてのヘアカラー a を入れるべくほぼ半球形状に凹んで形成され、上面が開口した液溜め部 10 を有するカップ部 11 を有している。このカップ部 11 の外側には、カップ部 11 を保持するためのハンドル部 12 が設けてある。

25 カップ部 11 の内面上方（液溜め部 10 の上方）には、複数の櫛歯 15 が並べて設けてある。この実施の形態では、カップ部 11 の内面上方においてハンドル部 12 の基部が取り付けられている箇所の近傍に凹部

16が形成されており、この凹部16に、垂直上向きの複数の櫛歯15がほぼ等間隔の隙間を空けて平行に並べて配置されている。各櫛歯15は長さが等しく、各櫛歯15の上端高さは、カップ部11の開口上端部とほぼ等しい。

5 前述のように半球形状に凹んで形成された液溜め部10の内面には、計量用の目盛となるアラビア数字17が記載されている。このように液溜め部10の内面に記載された各アラビア数字17は、10単位で上方ほど大きい数字となっており、液溜め部10に入れられたヘアカラーaの液面の高さに最も近いアラビア数字17を読むことによって、ヘアカラーaの量(cc)を把握できるようになっている。なお、ヘアカラーカップ1をどのような向きから見てもアラビア数字17を読めるように、液溜め部10の内面において3方向の位置(120°間隔)にアラビア数字17が記載されている。

15 カップ部11の外面には、水平方向に伸びる環状の溝20が複数段(図示の例では3段)に形成されている。これら各溝20の直径は、下の溝20ほど小さい。また、各溝20同士の間は、下に向って絞られた凸曲面になっている。

また、カップ部11の外面上方には、カップ部11の上端から外側に突出する注ぎ口21が形成されている。カップ部11の底面には、複数  
20 箇所(例えば5箇所)にスポンジゴム22が埋め込んである。

ハンドル部12は、その基部から順に幅広部25、中間部26、幅狭部27の3つの部分で構成されており、幅広部25と中間部26の間に溝28が形成され、中間部26と幅狭部27の間に溝29が形成されている。これら幅広部25、中間部26、幅狭部27には、上下方向に貫通する平面視で楕円形状の孔30、31、32がそれぞれ設けられてい  
25 る。これらのうち、幅広部25に設けられた孔30が最も大きく、幅狭部27に設けられた孔32が最も小さく、中間部26に設けられた孔3

1 は、幅広部 2 5 の孔 3 0 と幅狭部 2 7 の孔 3 2 の中間程度の大きさである。

ハンドル部 1 2 を横から見ると、ハンドル部 1 2 の中心線 L が上に凸となるように湾曲しており、かつ、中心線 L がハンドル部 1 2 の先端  
5 (カップ部 1 1 の外側に取り付けられるカップ部 1 1 の基部と反対となる端側) に向って下がるように、僅かに傾斜して設けられている。

また、ヘアカラーカップ 1 を上から見ると、カップ部 1 1 の外面上方に形成されている注ぎ口 2 1 の位置を示す中心線 L' と、ハンドル部 1 2 の中心線 L とは、90° よりも大きい角度で交差するように、注ぎ口  
10 2 1 とハンドル部 1 2 の位置関係が設定されている。

さて、理髪店や美容院などにおいて、この実施の形態にかかるヘアカラーカップ 1 を用いて毛染めを行う場合、理容師や美容師は、椅子に座った顧客の近くのワゴンの上やサイドボード、テーブルなどの上にヘアカラーカップ 1 を置き、椅子に座った顧客の頭部近くにヘアカラーカップ 1 を置く。  
15 この場合、ワゴン等の上面にヘアカラーカップ 1 を載せて置く場合であれば、カップ部 1 1 底面の複数箇所に埋め込まれたスポンジゴム 2 2 がワゴン等の上面に接触するので、平らなワゴン等の上面にヘアカラーカップ 1 をぐらつかせずに安定させて置くことができる。なお、カップ部 1 1 の底面において 5 箇所にスポンジゴム 2 2 を埋め込んだ場合は、一本の連続したゴムリングをカップ部 1 1 底面に配置した場合やカップ部 1 1 底面の 3, 4 箇所にスポンジゴムを埋め込んだ場合に比べてより安定する。  
20

また、図 5 に示すように、ワゴン等の上面 4 0 にはヘアカラーカップ 1 を保持するための円孔 4 1 が設けられている場合もある。そのような場合は、カップ部 1 1 の下半部を円孔 4 1 に挿入することによって、ヘアカラーカップ 1 を更に安定させて保持することができる。その場合、このヘアカラーカップ 1 にあっては、カップ部 1 1 の外面が全体として  
15

下に向って絞られた凸曲面に形成され、かつ、カップ部 11 外面には、下に行くほど直径が小さい溝 20 が複数段に形成されている。このため、図 5 に示すようにカップ部 11 の下半部を円孔 41 に挿入した場合は、適当な溝 20 の箇所でカップ部 11 外面が円孔 41 に嵌り込んだ状態となり、ぐらつかずに安定してヘアカラーカップ 1 が保持される。

そして、染料としてのヘアカラー a をヘアカラーカップ 1 の液溜め部 10 に入れる際には、カップ部 11 内面（液溜め部 10）に計量用のアラビア数字 17 が記載されているので、理容師や美容師は、液溜め部 10 に入れたヘアカラー a の液面の高さに最も近いアラビア数字 17 を読むことによって、ヘアカラー a の量（cc）を容易に把握できる。この場合、液溜め部 10 の内面に 3 方向の位置（120° 間隔）にアラビア数字 17 が記載されているので、ヘアカラーカップ 1 をどのような向きから見てもアラビア数字 17 を読むことができる。

そして、理容師や美容師は、例えばブラシ 45 の先端のブラシ部 46 をヘアカラーカップ 1 の液溜め部 10 に入れ、ヘアカラー a 中にブラシ部 46 を浸す。こうしてブラシ部 46 にヘアカラー a を付着させて、液溜め部 10 から掬い取ったヘアカラー a を顧客の毛髪に塗布する。

このように液溜め部 10 からヘアカラー a を掬い取る際には、液溜め部 10 が半球形状に凹んだ形状であるので、液溜め部 10 に入れられたヘアカラー a が横に広がらず、液溜め部 10 の底部中央に集まるので、ヘアカラー a を掬い取りやすい。

そして、顧客の毛髪に塗布する際にブラシ部 46 に付着したヘアカラー a の量が多過ぎるような場合は、図 6 に示すように、カップ部 11 の内面上方に並べて設けられた複数の櫛歯 15 にブラシ部 46 を押し当て、ブラシ 45 を動かしてブラッシングすることにより、余分なヘアカラー a をブラシ部 46 から容易に削ぎ落とすことができる。また、このように櫛歯 15 にブラシ部 46 を押し当ててブラッシングすることにより、



ブラシ部 4 6 の形も整えることができる。こうして、形を整えたブラシ部 4 6 に適量のヘアカラー a を付着させて顧客の毛髪に塗布することにより、作業がやりやすくなり、また、途中でヘアカラー a がブラシ部 4 6 から垂れたりすることがない。

- 5      また、このようにブラシ 4 5 で顧客の毛髪にヘアカラー a を塗布していると、毛髪やほこりなどがブラシ部 4 6 に付着することがある。そのような場合にも、図 6 に示すように、カップ部 1 1 の内面上方に並べて設けられた複数の櫛歯 1 5 にブラシ部 4 6 を押し当て、ブラシ 4 5 を動かしてブラッシングすることにより、ブラシ部 4 6 に付着した毛髪やほ  
10      こりなどを、手を汚さずに容易に除去することができる。

そして、櫛歯 1 5 によってブラシ部 4 6 をブラッシングした際には、ブラシ部 4 6 からヘアカラー a が垂れることになるが、そのようにブラシ部 4 6 から垂れたヘアカラー a は、凹部 1 6 に受取られた後、カップ部 1 1 の内面を伝わって液溜め部 1 0 に流れ落ちるので、カップ部 1 1  
15      の外側に垂れることがなく、周りを汚さない。

- また、このように櫛歯 1 5 によってブラシ部 4 6 をブラッシングする場合、ハンドル部 1 2 の基部が取り付けられている箇所の近傍に櫛歯 1 5 が並べて配置されているので、図 6 に示すように、ブラッシングする際に、ブラシ 4 5 を持っていない方の手でハンドル部 1 2 を押えること  
20      により、櫛歯 1 5 を安定させることができ、ブラッシングしやすい。

そして、作業を中断する等、ブラシ 4 5 を使わない場合は、図 5 に示すように、ブラシ部 4 6 を上にした姿勢でブラシ 4 5 を孔 3 0 に差込んでおくことにより、ワゴン等の上面 4 0 を汚さずに、ブラシ 4 5 を立てておくことができる。

- 25      また、ハンドル部 1 2 を握ってヘアカラーカップ 1 を手に持つ場合は、ハンドル部 1 2 全体が凸となるように湾曲し、ハンドル部 1 2 の先端に向って下がるように傾斜しているので、ハンドル部 1 2 が手から抜け落

ちにくく、ヘアカラーカップ 1 が重たい場合でも、滑らずにしっかりと保持することができる。

また、ハンドル部 1 2 を持ちながら液溜め部 1 0 に入れたヘアカラー a を注ぎ口 2 1 から流し出す場合、注ぎ口 2 1 とハンドル部 1 2 が 90° よりも大きい角度で交差するような位置関係となっており、ヘアカラー a を注ぎ口 2 1 から流し出す作業がしやすい。

以上、本発明の好ましい実施の形態の一例を示したが、本発明はここに例示した形態に限定されない。図 1 ～ 6 では、カップ部 1 1 の内面においてハンドル部 1 2 の基部が取り付けられている箇所の近傍に凹部 1 6 を形成し、そこに櫛歯 1 5 を配置した例を示したが、図 7 に示すように、カップ部 1 1 の内面に凹部を形成せずに、カップ部 1 1 の内面に直接櫛歯 1 5 を設けても良い。なお、櫛歯 1 5 の突出方向は、図 1 ～ 6 で説明したような垂直上向きに限られない。例えば、図 7 中に実線で示した櫛歯 1 5 のように水平横向でも良いし、図 7 中に一点鎖線で示した櫛歯 1 5' のように斜め下向でも良いし、図 7 中に二点鎖線で示した櫛歯 1 5'' のように斜め上向でも良い。いずれの場合も、複数本の櫛歯をほぼ等間隔の隙間を空けて平行に並べて配置するのが良い。また図 8 に示すように、複数本の櫛歯 1 5 を横ではなく縦方向にほぼ等間隔の隙間を空けて平行に並べて配置することも可能である。もちろん複数本の櫛歯 1 5 を斜めの方向にほぼ等間隔の隙間を空けて平行に並べて配置することも可能である。なお、図 7, 8 に示した実施の形態は、カップ部 1 1 の内面に凹部を形成しない点、及び櫛歯 1 6 の向きを変えた点を除けば、先に図 1 ～ 6 で説明した実施の形態と同様の構成を有している。よって、図 7, 8 において、先に図 1 ～ 6 で説明した実施の形態と共通する構成要素については、同じ符合を付することにより、重複した説明を省略する。

また図 9 に示すように、櫛歯 1 5 をカップ部 1 1 の内面底部に設ける

こともできる。

更に、図 10 に示すように、例えばカップ部 11 の上端面に櫛歯 15 を並べて設けても良い。また、図 9, 10 に示した実施の形態においても、櫛歯 15 の向きは、鉛直方向に限らず、横に向って突出する櫛歯や  
5 斜め上向きもしくは斜め下向きに向って突出するような櫛歯であっても良い。

なお、図 9, 10 においても、先に図 1 ~ 6 で説明した実施の形態と共通する構成要素については、同じ符合を付することにより、重複した説明を省略する。

10 また、櫛歯 15 の長さは任意であり、櫛歯 15 の上端高さは、必ずしもカップ部 11 の開口上端部とほぼ等しくなくても良く、櫛歯 15 の上端高さがカップ部 11 の開口上端部よりも低くても良いし、逆に高くても良い。

また、櫛歯 15 の配置は、ハンドル部 12 の基部が取り付けられている箇所  
15 の近傍に限られず、ハンドル部 12 の基部から離れた位置に櫛歯 15 があっても良い。

また、このヘアカラーカップ 1 は、透明な材料で構成すれば、外側から液溜め部 10 に入れたヘアカラー a の色や量なども容易に目視できる。また、透明な材料で構成されていれば、カップ部 11 外面に形成されて  
20 いる溝 20 をカップ部 11 の内面から見ることができ、溝 20 を基準にしてヘアカラー a の量を把握することも可能となる。例えば、リタッチ用にヘアカラー a の量を少なくしたり、全頭用にヘアカラー a の量を多くしたりすることも容易となる。

また、カップ部 11 内面（液溜め部 10）に凸部を適宜配置すること  
25 により、混ざりにくいクリーム等もダマにしないで混ぜることができ、短時間で乳化させることも可能となる。その場合、カップ部 11 内面（液溜め部 10）に形成する凸部は、縦線上、環状線上等、任意の位置

に配置することができる。

その他、ハンドル部 1 2 やカップ部 1 1 外面 b などエッチングすることにより、全体として滑りにくいヘアカラーカップ 1 を提供できる。

5 本発明の染料カップは、ヘアカラーカップに限らない。例えば画材やその他の塗料など、種々の染料をいれる染料カップに適用できる。また、その容量も任意であり、例えば、300cc、1リットル等、種々の容量のカップを提供できる。

#### 産業上の利用可能性

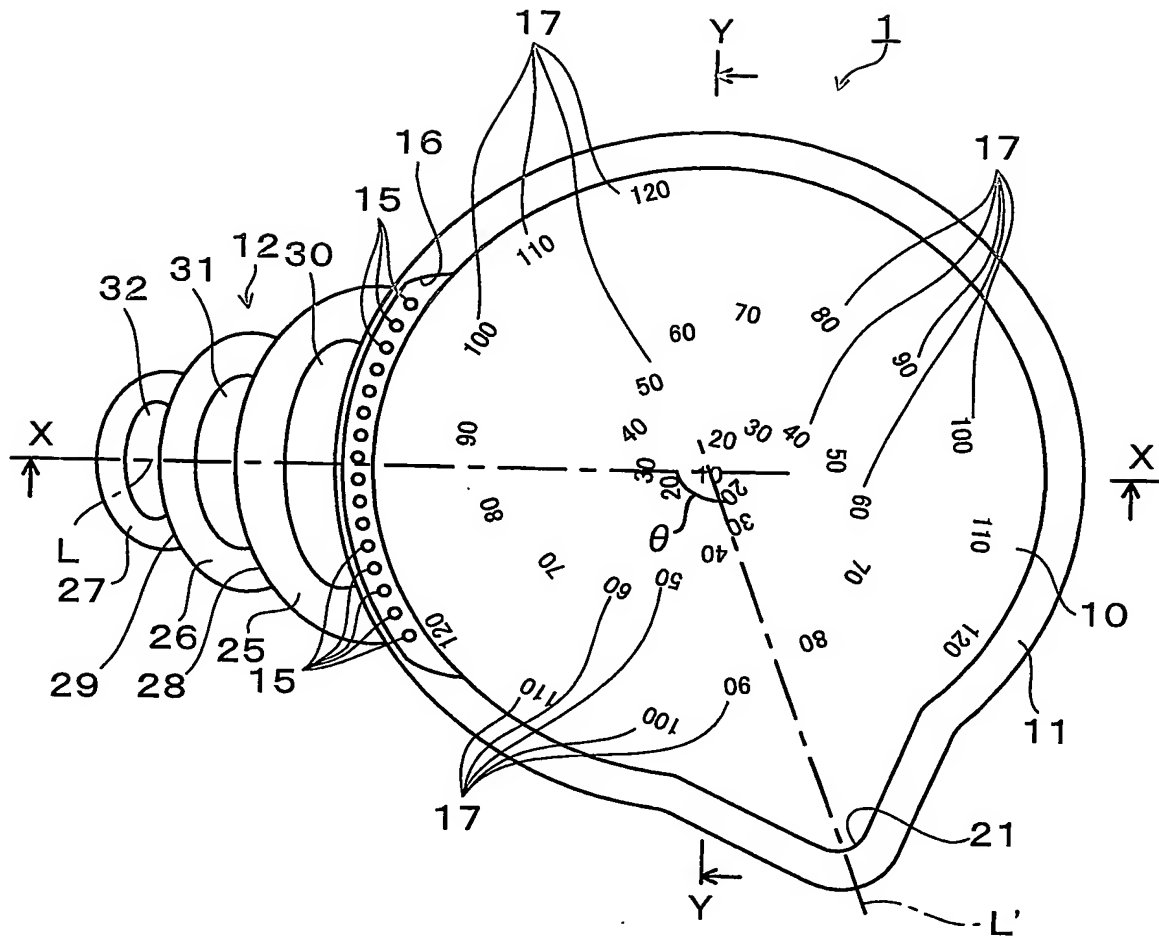
10 本発明の染料カップは、例えば理髪店や美容院などにおいて利用される。

## 請求の範囲

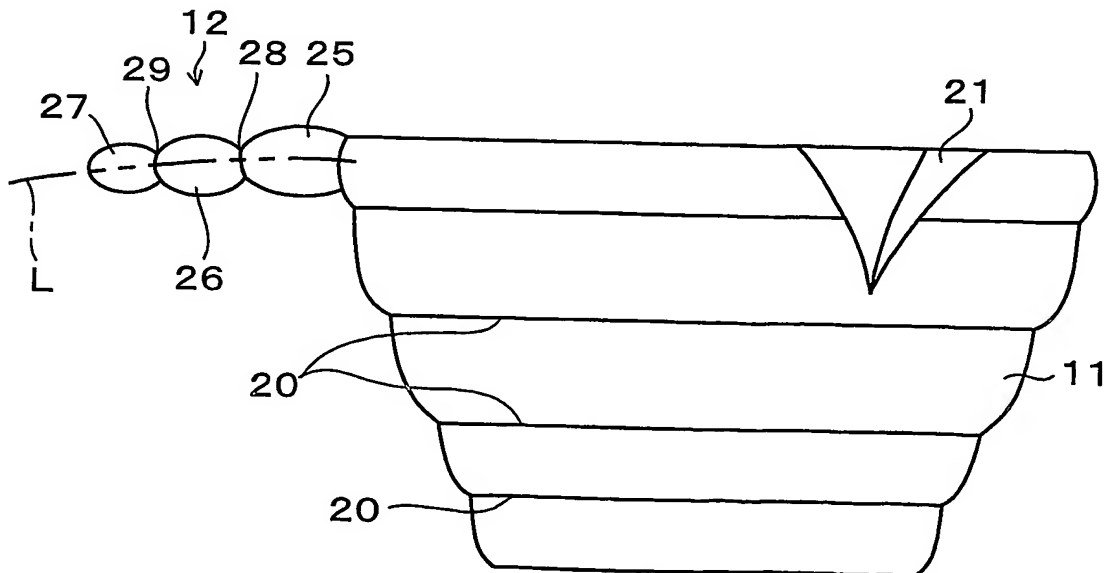
1. 染料カップであって、  
染料を入れるための上面が開口したカップ部を有し、  
カップ部の上端面もしくはカップ部の内面上方に、櫛歯が並べて設けら  
5 れている。
2. クレーム1の染料カップにおいて、前記染料はヘアカラーである。
3. クレーム1の染料カップにおいて、カップ部の内面上方に凹部が  
形成され、この凹部に複数の櫛歯が並べて設けてある。
4. クレーム1の染料カップにおいて、カップ部の外側にカップ部を  
10 保持するためのハンドル部が設けてあり、該ハンドル部の基部近傍に前  
記櫛歯が設けられている。

1/6

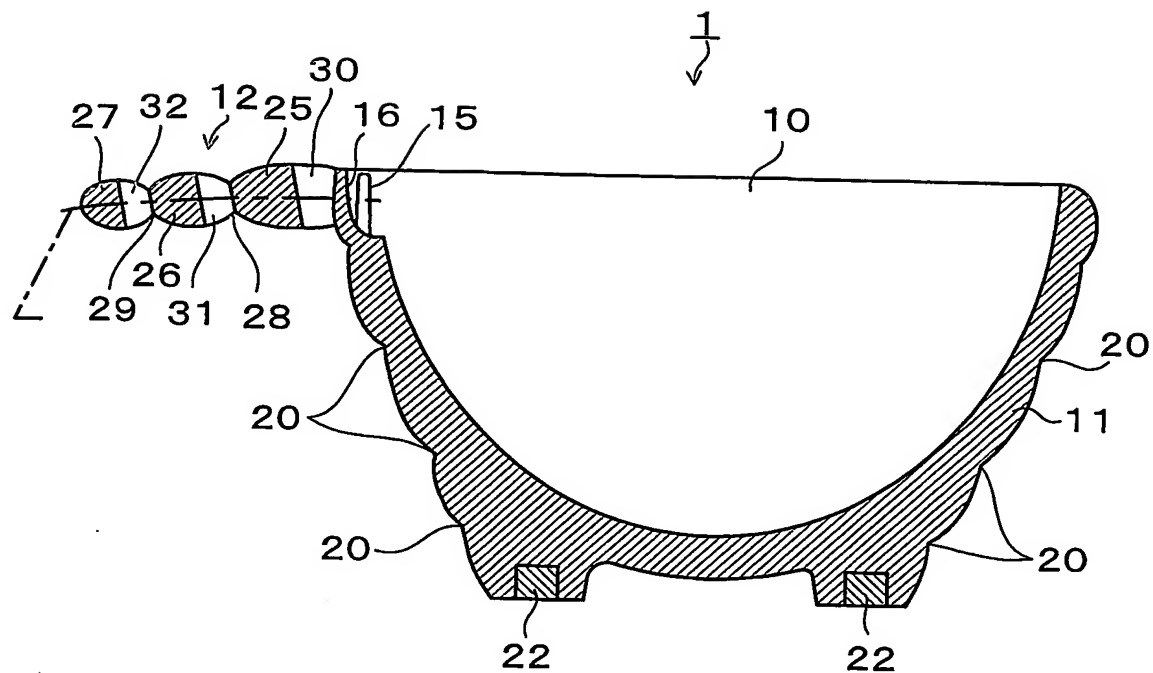
第1図



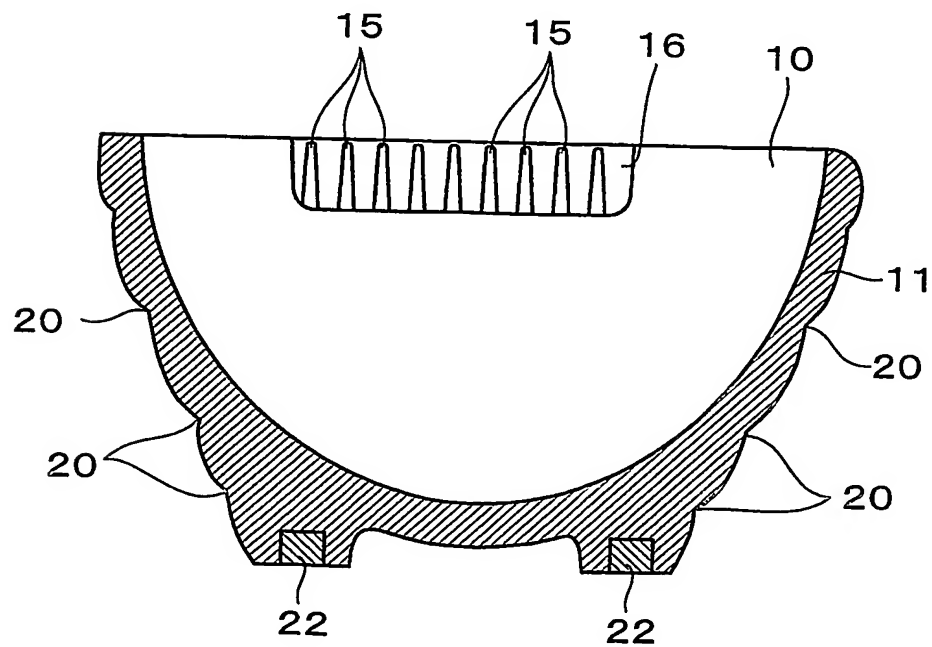
第2図



第3図

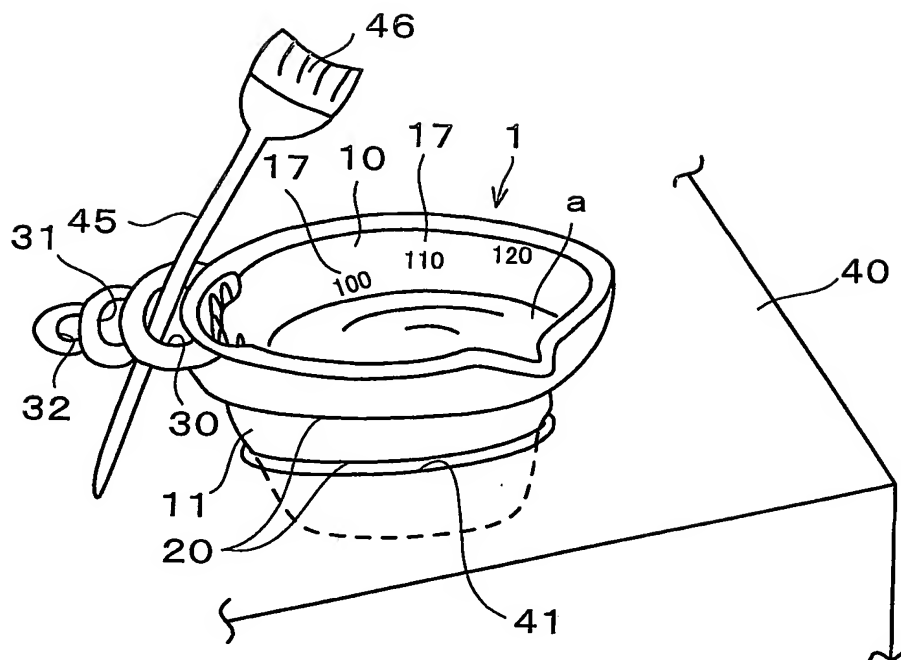


第4図

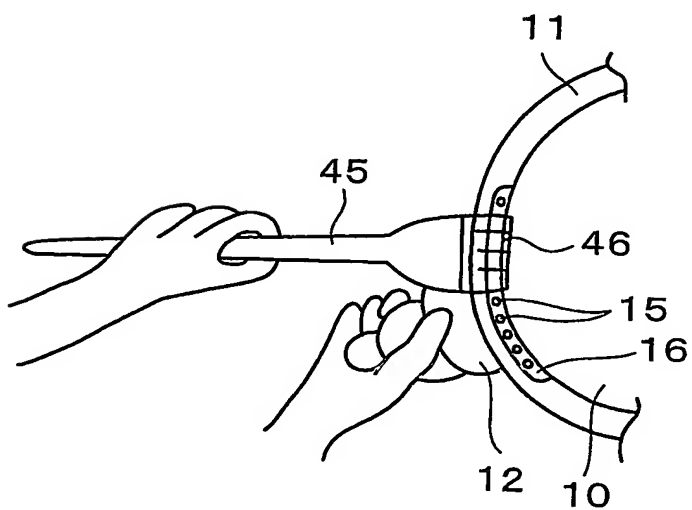


3/6

第5図

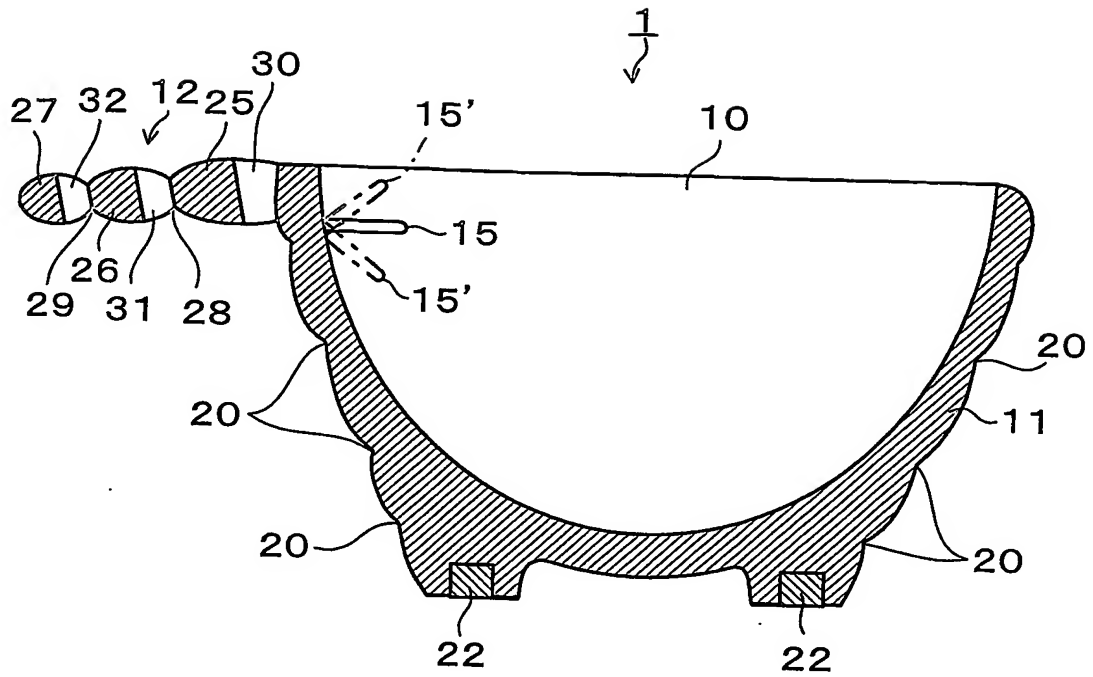


第6図

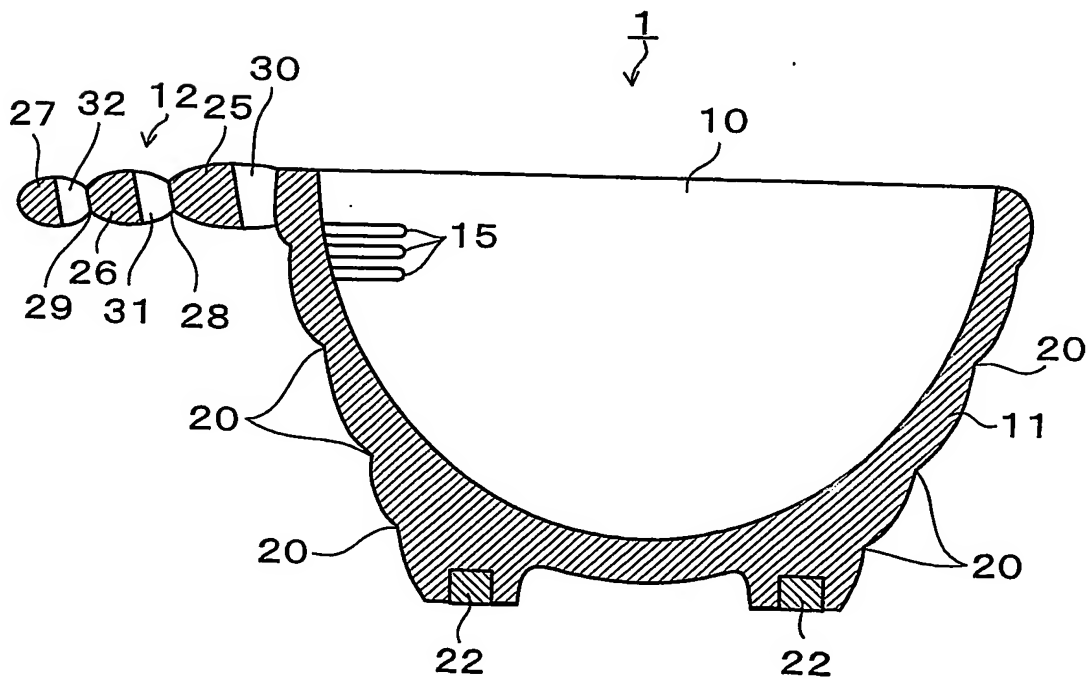




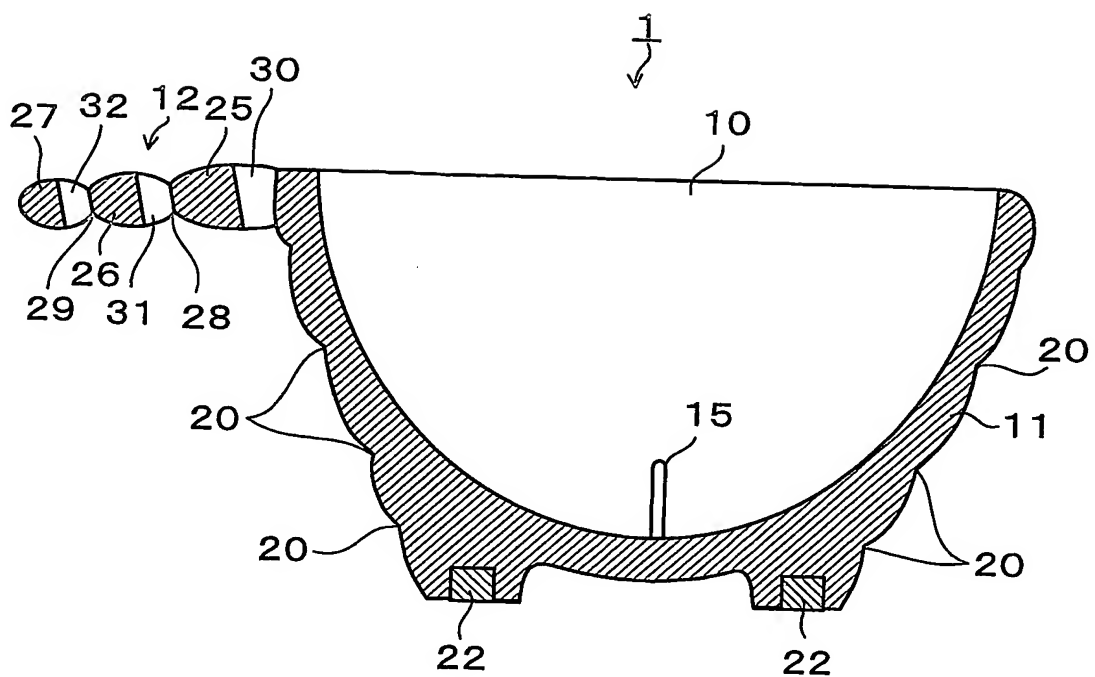
第7図



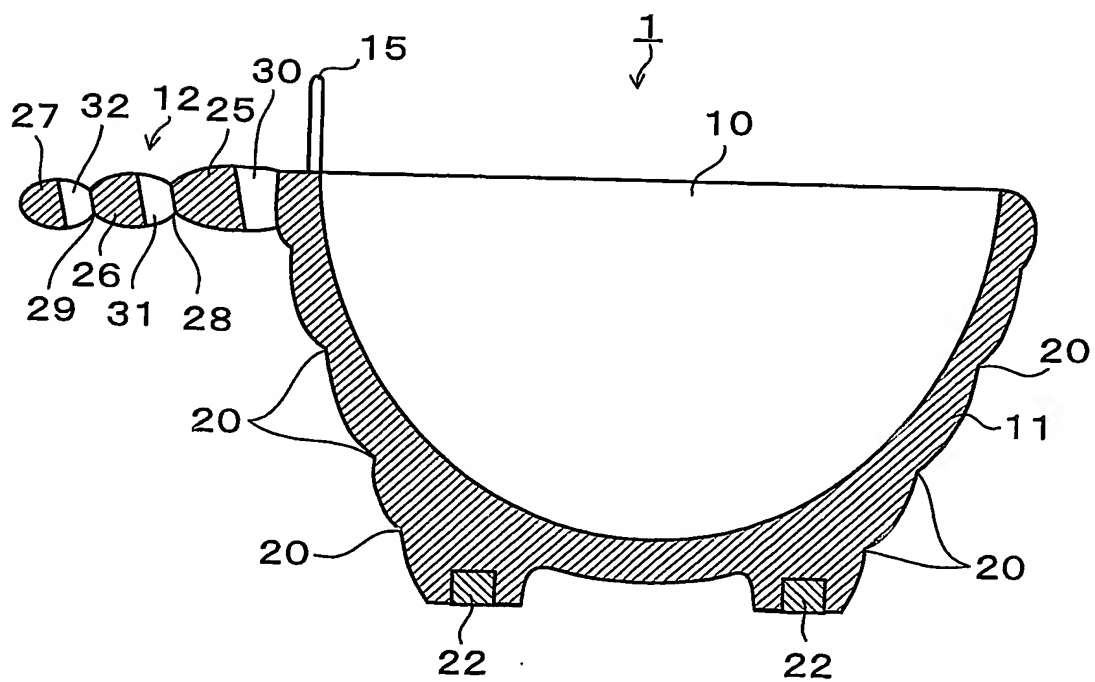
第8図



第9図



第10図



6/6

## 符号の説明

- 1 ヘアカラーカップ
- a ヘアカラー
- 10 液溜め部
- 11 カップ部
- 12 ハンドル部
- 15 櫛歯
- 16 凹部
- 17 アラビア数字
- 20 溝
- 21 注ぎ口
- 30, 31, 32 孔
- 45 ブラシ
- 46 ブラシ部

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/005203

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER  
Int.Cl<sup>7</sup> A45D19/02

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

## B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)  
Int.Cl<sup>7</sup> A45D19/00-19/02, A61K7/13Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched  
Jitsuyo Shinan Koho 1922-1996 Toroku Jitsuyo Shinan Koho 1994-2004  
Kokai Jitsuyo Shinan Koho 1971-2004 Jitsuyo Shinan Toroku Koho 1996-2004

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

## C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2000-316627 A (Hiroyuki MATSUMOTO), 21 November, 2000 (21.11.00), Full text; Figs. 1 to 3 (Family: none)	1-4
A	JP 3035457 U (Hoyu Co., Ltd.), 25 December, 1996 (25.12.96), Full text; Figs. 1 to 2 (Family: none)	1-4
A	JP 2000-201722 A (Kanebo, Ltd.), 25 July, 2000 (25.07.00), Par. Nos. [0011], [0012]; Figs. 1 to 3 (Family: none)	1-4

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search  
05 July, 2004 (05.07.04)Date of mailing of the international search report  
20 July, 2004 (20.07.04)Name and mailing address of the ISA/  
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

## INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2004/005203

## C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 3088100 U (Hoyu Co., Ltd.), 12 June, 2002 (12.06.02), Full text; Fig. 1 (Family: none)	1-4

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))  
Int. Cl<sup>7</sup> A45D19/02

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int. Cl<sup>7</sup> A45D19/00-19/02, A61K7/13

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報 1922-1996年

日本国公開実用新案公報 1971-2004年

日本国登録実用新案公報 1994-2004年

日本国実用新案登録公報 1996-2004年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP 2000-316627 A (松本 博之) 2000.11.21, 全文, 第1-3図 (ファミリーなし)	1-4
A	JP 3035457 U (ホーユー株式会社) 1996.12.25, 全文, 第1-2図 (ファミリーなし)	1-4
A	JP 2000-201722 A (鐘紡株式会社) 2000.07.25, 【0011】【0012】, 第1-3図 (ファミリーなし)	1-4
A	JP 3088100 U (ホーユー株式会社) 2002.06.12, 全文, 第1図 (ファミリーなし)	1-4

☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。

☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

\* 引用文献のカテゴリー

「A」 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)

「O」 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」 同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

05.07.2004

国際調査報告の発送日

20.7.2004

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

増 澤 誠 一

3K

7535

電話番号 03-3581-1101 内線 3332